

響け！幸せのメロディー 少年の主張 全国大会3位



さかもと ゆう
坂本 優 (陣)

御船中学校3年

—タイトル—

響け！幸せのメロディー

地震をきっかけに、御船中学校の吹奏楽部が避難所で演奏し、人々に感動や勇気を与える姿を見て、坂本さんも吹奏楽部に入部することを決意する。吹奏楽部では部長も経験。吹奏楽部でボランティアをしていくうちに、自分の中で“何か”が違ってゆく。

「第40回少年の主張」の全国大会が11月11日、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催されました。熊本県・九州地方の代表として出場した坂本優さん（御船中・3年）が国立青少年教育振興機構理事賞を受賞し、全国3位という快挙を成し遂げました。

練習の成果

中学生が口にする考えを発表する「少年の主張」は、県内で1、802点の応募があり、9月8日に行われた県大会では、見事最優秀賞を受賞した。練習は毎日行った。学校では先生たちや関係者から、アクセントや間の取り方、場面が変わるとき色の声などの細かいアドバイスを受けて、九州大会に臨んだ。九州大会はテープ審査による選考。顔が見えず、声だけが頼りになり、難しい審査だったが、九州代表として選ばれた。御船町として初めての出来事だった。

心の変化

熊本地震のときは、中学校の体育館に避難していた坂本さん



たけした まさし
竹下 昌史 (西原村)

阿蘇西原スポーツ少年団 - 代表者

阿蘇西原道院 - 代表者

そとかわ せいいち
外川 誠一 (小坂)

熊本平成スポーツ少年団 - 代表者

熊本健軍道院 - 代表者

少林寺拳法 全国大会組演武 全国制覇一

10月27、28日、2018年少林寺拳法全国大会が群馬県高崎アリーナで行われ、熊本県代表として御船町から外川誠一さん（小坂）が出場し、全国大会で初最優秀賞を勝ち取りました。

少林寺拳法との出会い

外川さんは、兵庫県で生まれ育ち、少林寺拳法との出会いは14歳のとき。「強くなりたい」「自分に負けたくない」という気持ちから入会のために、門を叩いた。

熊本復興のために

外川さんが出場したのは、2人で競技する「組演武」。共に演武をしたのは、阿蘇西原道院などの代表者をしている竹下昌史さん（西原村）。二人が出場した一般男子マスターズBの部は、二人の合計年齢が110歳以上ないといけない。熊本県大会は毎年一回行われており、上位は全国大会につながっている。指導者の立場にある外川さん

挑戦し続けること

少林寺拳法とは、「人生の楽しみ」と語る外川さん。ただ強くなるだけではなく、人間性も養われるのがこの競技。少林寺拳法を通して、地域から町、そして世界に羽ばたくような人材が育ってくればと考えている。外川さんを動かしている力の源は、「少林寺拳法が好き」だからだ。この気持ちを大切に、力の続く限り、指導者としての努力を怠らず、後継者をつくっていくことが今後求められることだ。これからも挑戦し続ける外川さんには目が離せない。



▲御船町（藤木町長：左）へ報告した外川さん（右）



▲大会で数々の好成績を残す拳士たち

見学は自由です。
興味のある方は
ぜひ見に来てください！
お待ちしております。

- 毎週水曜日、土曜日
- 時間 19時30分～21時
- 場所 御船町スポーツセンター 2F 武道場



賞状を持って記念撮影する坂本さん(中央)

では聞いている人に「少しでも前向きにボランティアをやってみよう」という気持ちになってもらえれば」と心を込めて発表した。結果は全国3位。「まさか受賞できるとは思ってなかった」と笑顔で喜ぶ坂本さん。努力が結果に結びついた瞬間でした。

私生活について

部活動も引退し、部としてボランティアができることはないが、現在JRC（社会貢献活動）委員会の委員長をしている。県内外でもさまざまな災害が発生する中、「どこかで助けを求めている人がいる。自分にできることを考えて、募金活動などに積極的に参加したい」と強い気持ちでいる。坂本さんは今日もどこかで、自分にできることを探し、幸せのメロディーを響かせている。

全国の舞台で

そして、全国大会。全国で55万人の応募の中から、12人の代表が集結した。本番のリハーサルでは「賞をとらなければいけない」「結果を残さないといいない」とプレッシャーでいっぱいになり緊張が増した。そんなとき、両親や先生から「順位や賞を気にしないで、自分の思いを出し切りなさい」という言葉を聞いてから、本番は、自分の発言だけに集中できた。この主張